# 京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅錢▲三ケ月前金九十錢▲六ケ月前金一圓八十錢▲郵税一ケ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六六（三））
發行所 京城新報社

雜報

## ●朝鮮氣候概況（十一月中）

氣壓は全く冬季の配置を示し北淸方面の增高に伴ひ北西部に高く日本海々岸に低し即ち城津の七百六十四粍一より龍岩浦の七百六十六粍五に至る其差二粍四に達し前月に比すれば北東部に二粍以內の低落を見しも其他は一粍以內の增高に止まれり▲最多風向は槪ね北乃至西を占め平均速度は黃海岸は大にして七米突內外を示し其他沿岸は四乃至五米突にて內陸は凡そ三米突を超へず全月中各地の最大風速度は九、十日及び十六、七日にして十六日仁川の三十二米突を第一とし同日元山に於ける二十九米突之れに亞ぐ其他は槪して十二乃至十九米突なり暴風日數は黃海々岸に於ては全月の半數以上を算し就中木浦の十八日を最とす平均氣溫は龍岩浦の二度三より釜山の十度二の間にありて前月に比すれば七度以上降下せり低柱は各地とも十八日乃至二十日の間にして木浦は氷點以上なりしも他は以下に降り殊に京城平壤等は氷點下八度にして降水量は元山地方の二百二十五粍餘の多量に達したると釜山地方の百粍餘なるとの外は全土を通じて七十粍乃至八十粍なりとす殊に城津地方は僅かに三十八粍弱に過ぎず快晴日數は八乃至十一日にして獨り釜山は十八日の多きに及びしも木浦は七日に過ぎず結霜は內地地方には十日以上を算し殊に大邱の十八日を最とし平壤の十五日之れに亞ぐ北部地方は八日乃至九日を算せり降雪は北部は槪ね前月中に初雪ありしも北部は本月十六日に初雪あり城津は八日龍岩浦五日其他は三日以下降雪を見たり而して電雷は唯龍岩浦に二回ありたるのみ同月中低氣壓の朝鮮及び附近を通過したるは三回にして此外國境附近を通過したる淺薄なるは數回あり而して九日より十日に亘るものは半島の中央部を橫斷して各地に暴風雨を起し全月中雨量も大半は該低氣壓に伴ひ爲めに船舶其他の損害も少なからざりし

## ●縱目なし叺の發明

在來の俵乃至叺は中實の脫漏殘留等を生じ不經濟の點尠からず荷造改良の必要盛んに唱道せらるゝ所以なるが廣島縣の實業家中川實氏は多年其改良に苦心せる結果此程機械力を以て縱目なき叺の製織法を發明し右製織裝置及び方法の特許權並に其製品に對し實用新案の登錄を受けたる由此改良叺を在來品に比すれば第一縱目なきが故に中實の脫漏殘留等の憂なき上に最も壓迫力を受くる叺の中央部に於て藁の元と末を組合せあるを以て耐久力に富み隨て其荷造りに於ても僅に繩を十文字に掛くれば足り至極簡易にして勞費を省き得べく第二機械力に依るが故に一人一日に少なくも二十個を仕上ぐべく而かも機械の製作費は一臺僅に三十餘圓に過ぎざるを以て在來品の一個平均九錢なるに對し五錢三厘に賣捌くも尙は相當の利益を擧げ得べし隨て既に製品の賣買豫約も少なからずと云ふ就ては今般會社組織を以て事業を經營するに決し六日其創立事務所を東京に設けたる由なるが會社は日本叺製造會社と名づけ資本金を百萬圓とし當分四分の一の拂込に止むる筈なりと

## ●司法部の講演會

倉富長官發起にて元司法廳時代より同廳判任官以下をして毎月一回以上會合し司法事務打合等を爲し來れるが今回は大に規摸を擴張し司法部及在京城裁判所幷に監獄署等を通じ全會員八十餘名の多きに達したるが一昨十日午後より同部に開催渡邊高等法院長の古代バビロンに於て施行したるハムラビ法典（四千年前のもの）二百八十二條よりなるものを逐條的に講演し其の他二三の講演あり頗る盛會なりしと

## ●內地驛賣酒改良

現に內地鐵道各驛にて販賣せる壜詰日本酒中には品質不良の物少なからず之がため往々旅客が健康を害する事あり西部鐵道管理局にては此の弊害を防止する目的にて今回灘酒の釀造本元なる灘の各釀造家と特約し來る十五日より管下一般の各驛にて此改良酒を販賣せしむる事となれるが其の改良賣價は白鶴、菊正宗、澤の鶴、白鹿、櫻正宗が四合壜三十錢、二合壜二十錢、一合壜十錢にして富久娘は四合壜三十六錢他は同樣、泉正宗は二合壜十九錢にして他は同樣也

## ●水産界の福音

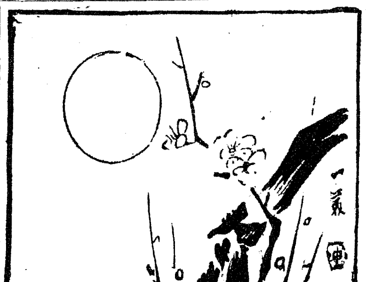
咸鏡南道長官の報告に依れば由來同道沖合にては多大の鰹魚群泳する趣は常に航行者の報導する處なりしが未だ之れが漁獲ありしを聞くに至らず甚だ遺憾とする處なりしに去る十月十日江原道長津（元山を去る南方約七里）に於て目の下約一尺許りの眞鰹百尾許り鰯と共に地曳網に依りて漁獲せられたる由にて斯くの如きは全く空前の出來事なると同時に航海業者の報導の虛ならざるを證するを得たるが又此鰹漁業は將來頗る有望なるものなりと

## 和歌募集

勅題「寒月照梅花」 選者 九草館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月廿五日、發表は四十四年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮つて投詠せられんことを希ふ

十二月二日 本社編輯局

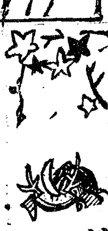


## ●慶北道北部狀况

李同道長官は澤村書記と共に金泉尙州咸昌龍宮醴泉豐基順興榮川奉化禮安義城軍威を巡視し去る八日歸邑せし由なるが同地方の民情に付き語りて曰く近時著しく日本化し至る所國旗を樹て其うち三ケ所五までも綠門等をしつらへるもあり道路は思の外よく開通せられ何處も人車にて旅行せらる可しと雖もたゞ橋梁のなきと山道の傾斜に注意ざりし場所數多あれど全郡二間巾の道路開通し奉化郡守の如きは人力車まで所有し該車の通行し得る道路改修を奬勵せし程なりと

## ●水上輸送開始

昨紙所報の如く目下新義州驛に停滯せる貨物約一萬三千個は其の到着順に依り既に九日午後より之れが輸送を開始したるが如何に多數の船を使用するも一日の最大輸送力は約三千個を出でざるべしと云へば全部の輸送を了るには早くて五日間を要する譯にて兎に角約一週間位の後にあらざれば輸送の終了を見るに至らざるべしと



## 山中鹿之助 第卅五回

西尾麟慶演

偖此雲州富田の城は山城で御座ひます、四面悉く岩山にして、山中尤も廣く本丸二の丸へかけて大ひなる池があります、池周圍は岩石峨々として、天然の草木植附るにあらずして四季の眺あり、一年中花の絶ゑ事なし、池の水は冬は溫かくして夏は冷たし、其池の底は何程深いか知れず、何れから水が出ると云ふ事もなく水が出ます、其中には種々の魚が居ります、此池の主と云ふものは何であるか一向に判りません、之を鹿之助が聞まして、其妖怪何程の事かあらん、我正体を見屆けくれんと殿へ申し上げて 鹿「此妖怪見屆の役目何卒某へ仰せ付け下されたい」と云ふ然らばと云ふので此役を鹿之助へ申付られました、相役があつては甚だ迷惑を致すと云つて只だ一人で之を受合ました、之に依て一同の者は彼は狂人である、人の出來ざる事を致す馬鹿もの、何んで我々が見屆得ないものが見屆けられるものかと云つて居りまする、鹿之助は何事を云はれても一向平氣で、之を引受けまして腰元葉末の部屋近所に來つて目を附て居りまする夜分になつて頓が丑三ッの刻限に相成ますると、眠氣がさして來て、何うも倒れさうだ、鹿之助此時是は妖怪の爲に斯う眠いのだと思ひました處、夫から眠くなりません、凡て斯う云ふ時に凡人は只だ眠い／＼と計り思つて居るから何うしても眠るが、妖怪の爲に眠いのだッと氣が附て見れば眠いものでは有ません、鹿之助は氣を取直して居りまするど、雨戸を開けまして例の通り葉末が手を取て若衆と共に部屋へ這入る樣子を確に見とめた、後ろから仕て切りつけるは易い事だが、左樣な遽まつた事は致しません、這入て何時まで居るかと思つて居りますると、鷄鳴の頃になつて葉末が雨戸の際まで送り出す、翌朝に相成つて一同のものが鹿之助へ尋ねて見たかと云ふから見たと云ふと、○「何う云ふものを見ました、鹿「夫は話せない ○「夫れぢやア矢張何だか判らない 鹿「イヤ判つて居る ○「判つて居れば話して聞せなさい 鹿「夫は拙者が退治致せば判るに依て夫迄は話せない」と云ふから夫でもと云ふ譯には參りませんから其儘になる、偖翌晩になつて鹿之助は例の通り待設ける



今宵は人知れず葉末の側から三尺通りへ灰を撒て置きまする、天地間に羽なくして地を踏ずに行くものは御座ひません、夫とは知らずして例の通り葉末が若衆を巳れの部屋へ引入れまする、夜が明てから鹿之助來つて能く／＼見ると梅の花の樣な、犬の足跡位ゐの足跡が附て居ります、其處から疊の上に灰の足跡が附て段々と椽側へ附てれります、之を見ました鹿之助、是れいよ／＼四足の業に相違なしと第三日目の晩に至り相變らず其身一人宿直致し曲者ござんなれと待設けて居りました處へ丑三ッと云ふ刻限になりまするど怪物が現れ出で葉末が手を取て來ります、鹿之助雨戸の影に隱れて居りました、行り過して置て聲をもかけず後から拔打に切りつけましたが、更に何の手答もない、其儘に姿は上の方を指て參ります、是はと又一太刀斬つけましたが更に手答なし、曲者は見返りもせずそろ／＼進んで參ります、茲で始めて心つき凡てケ樣な生化は其本体は下にあり、化したるものを上に置と云ふ下を踏ざる者は無いと、今度は臍をついて下を離る事六七寸と思ふ處を橫に拂つたるにキャッと云て姿はパッと消ました、其途端に雷の如く雨戸を引外して飛出したるものがありまする鹿之助は殘念なり確に手答へはしたが逃られたと跡追かけて雨戸の外れたる處より庭へ飛下りたる時に、ブーンと云つて水中へ飛入つたものがあります、鹿之助は追かけて來は來たが如何ともせん方が御座ひません、彼の池の汀に立て水を睨んで居りましたが、夜明くるを待て居りまして、一同の面々に此の話を致しまするど、一同も不思議に思ひ池の處へ來て見ると庭に血の跡が附て水の上にも血が見へます 鹿「何でも[illegible]一太刀切りつけたれば死骸は此の泉の中にあるに相違ないと云て居りましたが、一同は何を云ふかと思つて居りました

京城新報

## 日清同盟の必要

東京駐剳清國公使汪大燮閣下、目下當地に滯在せらる、余輩は閣下が健在にして來遊の目的を十分に達せられんことを望み同時に此の機會に於て余輩の持論たる日清同盟の必要を說かんとす

忌憚なく謂へば日清の關係は良好なりと雖も、又昔日の如くならざるやの風評がある、此の風評は何人が立てたるやを知らずと雖も、若しも此の風評にして事實ならんか日清兩國の不幸は勿論東洋全土の爲めに實に此上も無い不幸と謂はねばならぬ、而して之を冷靜に考へて見ると斯樣の噂が製造され流布さるゝに就ては其の製造者、流布者の考は別として噂の作り出さるゝ材料が萬更無かつたでも無いとも思はれる、其の材料は云ふと、余輩の私見よりすれば日本側では半島の經營及び關東州滿鐵の經營上から故意ならずとするも時に清國官民の感情を害するやうなことが絕無だとも謂へぬ、又一方之を清國側で謂ふと、數年來利權回收に熱心に務むるのあまり其の結果日本に對する日本の滿鐵關東州租借地及朝鮮の經營に關し、必ずしも故意ならずとするも好意を以て爲されたりとはいはれぬ事が絕無だとは謂へぬ。

併し百尺竿頭一步を進めて按ずるに、元是れ疑心暗鬼ともいふべきで兩國相互の豁達の心事を披瀝せざるに起因するものと謂はねばならぬ、殊に第三者が此の隙に乘じ、切りに策畧を施すところから近來のやうな變態を惹起するに至つたと謂はねばならぬ。

併し清國側のことは兎も角、日本側のことに就ては、余輩は余輩の及ぶ限りの範圍に於て日清の關係を圓滿にし其の間に誤解なからしめんことを從來務め來たのである、例せば朝鮮沿岸の清國人密漁問題の如き我が邦人の多數が反對したにも係はらず余輩は之を清國人の爲めに辯じたのである、亦た間島問題に就ても余輩の主張は同樣であつたのである、而して何を以て余輩が如斯主張を爲すかと云ふに、余輩は日清の國交といふ大問題の爲めには小なる間島や漁業權の事に犧牲となすの至當なるを信じたからである。

明白に謂へば余輩は日清同盟論者である、余輩は數年前より世界の大勢より觀じて日清同盟の必要を唱道しつゝあるのである、不幸にして余輩の主張は未だ實現せられずと雖も諺に日ふ物窮すれば通ずで、近き將來に於て必ずや余輩の主張の妄ならざる事が證さるゝでもあらう、併し窮して而して後ち渉ずといふは決して賢明なる國民の爲すべきことではないのである。

丁度日英同盟である、日英同盟は日英兩國の深謀遠慮に依りて出來たもので其の今日及び將來に如何に多大なる效果を齎すべきかは識者を俟て知るべきではあるまい、又日露戰爭は餘儀なくせられたが今日兩國間に親善の協約ありて密接の關係を持續しつゝあるは亦兩國の深謀遠慮に依るからである、日清同盟は單に同文同種だからといふ干係に止まらぬ現に國疆を接して實に唇齒輔車の關係を有する兩國間には利害共通上ドウしても成立せねばならぬ。

今や清國は近世文明を容れて立憲制を採用し國家の改善に務めて居る其の之を成就せんには國際的平和を有せねばならぬ、而して其の平和を有するが爲めには我日本と同盟せねばならぬ、翻て日本の立場よりすれば大陸に於ける商工業の發展につきては我は清國を尤も大なる買客とせねばならぬ、如何にしても我は日清同盟を作つて東洋の平和を保障せねばならぬ、以上之を要するに日清兩國が徵々たる事件の爲めに平素疎隔するといふことは誠に兩國百年の爲めに非ず今の時運に於て余輩の主張を納れ兩國の同盟を作るは最も策の得たるものだ、如斯せば兄弟墻にせめくの陋を去り、第三者をして乘ぜしむるの機會を有せしめぬ事になるのである、余輩の日清同盟論を提唱する豈に他意あらんや、實に兩國百年の幸福を全ふする他に途なしと信ずるからである。

### 東京電報（十二日）

▲**內閣改造無根** 關稅問題に關し小村外相桂冠して內閣の改造行はるべく風說盛んなるも右は好事者の揑造にして事實全く無根なり且つ該問題は現に英國と交涉中にて外相の引退を許さず其前途必ずしも悲觀すべからずと

▲**第二十七議會** 本年內に於ては全院委員長以下各常任委員の選擧だけにて二十五日より休會する事とし新年に入りては十五日より開會する見込なりしも政府の豫算案等の印刷物遲延するを免れず本年內に提出の運に至らず從つて二十日迄休會する事となるべしと

▲**鐵道院總裁と政友會** 後藤鐵道院總裁は昨十二日午後政友會本部に於て廣軌鐵道問題に就て長時間說明なしたる後ち更に鐵道院並に遞信省方面擔任記者と會して一塲の演說を爲したり

▲**蠶種統一と議會** 農商務省にては全國蠶種統一事業を計劃し愈々明年度より實施に着手する方針なれば來る二十七議會に於て一問題たるべし

▲**農會と治水問題** 帝國農會にては農業本位より治水問題を調査し農業生產增進上開墾制限方針を取るは不得策なりとし治水と農業の關係に就き浩瀚なる調査書を作製し農科大學助敎授上野農學士を主任とし調査會を開くべし

▲**棉花會社と總督** 朝鮮棉花會社發起人及棉花協會理事は昨日午後相携へて寺內總督を陸軍官邸に訪問し棉花栽培に關する總督府の方針を聽取せり

▲**生產調查會** 生產調查會の成績は原案を可決したるもの產業發達改良の件外五件建議案十七件ありしも銓衡委員に附せられしもの農事金融機關に關する件十二件等也

▲**學制案の經過** 學制案は旣に閣議を經て目下樞密院に廻附されて居るも年內中には到底議に上らざるべしと

▲**英協會大會** 昨十二日帝國ホテルに日英協會大會を開き朝鮮の名士二百餘名出席新に總裁を定め伏見宮貞愛親王殿下と英國大使との乾杯辭あり盛會を極む

▲**工兵の特別演習** 明年度擧行の工兵特別大演習は第六（熊本）第十二（小倉）第十八（久留米）の三箇大隊を以て編成し久留米附近に於て演習を行ふべく其準備として近々落合工兵監同地方に出張實地踏查を爲す可しと

▲**德川老公の隱居** 德川慶喜公は隱居の屆出を爲し御裁可を得たり

▲**田尻子と專修校** 專修學校々友等相謀り多年同校に貢獻を致したる田尻子爵並に相馬前正金銀行頭取の二氏本年還曆に相當するを以て坂本町銀行集會所に於て祝賀會を催す

### 雜報

●**露帝御命名日** 來る十九日は露國皇帝ニコラス第二世陛下御命名日に付當日宮中よりは鄭重なる御祝電を同國帝室に御發送あらせられ同時に祝賀勅使として式武官を霞ケ關なる同國大使館に御差遣相成り尙在露都本野大使をして同國帝室に參賀せしめらるゝ旨御沙汰ありたり

●**清國公使の旅程** 清國公使汪大燮氏は十四日夜大久保軍司令官の催す晚餐會に臨み十五日午前九時十分南大門發列車にて新義州へ赴き十六日は同地に滯在して十七日平壤へ引返し十八日正午鎭南浦に赴き十九日同地に滯在二十日歸城し二十二日仁川へ赴むく由にて猶ほ公使は二十一二三日頃寺內總督の歸任する迄滯在すべしと

●**清公使の視察** 滯京中なる清國公使は十三日午前十一時より昌德宮內の秘苑、工業傳習所及び景福宮等を巡覽視察せられたりと

●**中樞院議の効力** 中樞院議事規則は十二日訓令第六十五號を以て發布せられ是にて同院の成立を具備するに到りたるが聞く處に依れば總督より同院へ付議すべき事項の範圍は主として從來大臣會議に上りし主要事件の內朝鮮人一般の休戚に交涉あるもののみに限るべく又其決議の効力は一に總督の裁否に待ち純然たる諮議機關たるに過ぎずと

●**朝鮮棉花合同計畫** 濱本義顯、皆川芳造其他の諸氏の發起に係る朝鮮棉花會社、朝鮮棉業會社外一二の未設會社は和田、日比谷、佐久間氏等の斡旋に依り今回愈々合併して事業に着手することに協議纏りたるが前記の發起人及び一部紡織業者は一昨年より事業に着手せる大阪の韓國棉花會社（資本金廿萬圓）と合同して事業を經營するの得策なるを認め過般棉花栽培協會を介して同社の意向を搜りたるが大体に於て異議なき模樣なれば歐米漫遊中なりし韓國棉花會社專務庄司乙吉氏が不日歸朝するを待つて正式に交涉を開始する筈なりと因みに合同會社の資本は五百萬圓となし四分の一の拂込みを俟て事業に着手すべしと

●**朝鮮棉花創立進捗** 中橋德五郎、藤田穗一氏等の計畫中なる同社は創立事務着々進捗し已に今日まで朝鮮、臺灣、大阪、東京等より總株式四万株に對し六萬七千四百八十株の引受申込あり又地所も棉花栽培地域として最良の土地二千餘町步の借入を決定したり

●**本年の捕鯨狀況** 大坂の東洋捕鯨會社十一月中の營業狀況を聞くに目下事業開始中の箇所は朝鮮長箭（五隻）蔚山（五隻）對州比田勝（六隻）紀州二木島（一隻）同大島一隻の五ケ所にして更に九隻の運送船を使用して盛んに鯨肉の輸送に當らしめつゝあり而して同月中の捕獲種類は六十四頭なりしが今日の狀況に依り天候の異變なき限りは十二月の捕獲は必ず百頭以上に上るべく又價格も昨年に比すれば約三割の高價にて一頭の賣上直段は二千七八百圓より三千二百圓に達する由

●**最新式の漁業法** 最近トロール漁業法輸入せられて以來吾國の小規模なる我が漁業方法が遂然と革命の機運に際會しつゝある矢先今回又もや新式漁業方法の輸入を見るに至れり此の新漁業方法はドリフターと稱し汽船によりて精巧なる網を海上に浮流せしめ大洋の中層以上游泳せる魚類を一網打盡に漁獲せんとするにあり即ちトロール漁業法は大洋の中層以下殊に海底に於ける魚族を漁獲せんとするに對しドリフターは正反對に上層の鱗族を漁獲せん目的を有するものと見れば大差なかるべくされ ばトールと併用するに於いては幾仞の深さを有する大洋に於ても海底より海面までを通じて魚類を漁ることを得る譯にして四面環海の我が國に於ては大に有望なる漁業なりとし農商務省水產局に於ては夙にドリフターの本家なる英國及び獨逸に就き調査を重ねたる結果過般小瀨技師が隱岐水道に於て帆船を使用して之を實驗したるに成績頗る良好なるを認めたる旨報告ありどの事なるが早くも岡、山田、川北、三輪、中村の諸氏は資本金三十萬圓を以て山口縣にドリフター漁業會社設立の計畫を立つるに至れりといふ

●**さらは漁塲の發見** 鯛延繩は從來麗島以內の永興灣內に於てのみ操業し來りしものなるが每年十月頃よりは漁獲極めて稀なるより一般歸釣に發するを常とせり然るに本年は同期に入り新たに永興灣口より約數十里の沖合に於て一大新漁塲を發見したるを以て漁塲の區域非常に擴大せられ致方沖鵲島（俗四時間島）附近に於ては殊に盛んに釣獲せられたり出漁船數一日約十四五隻平均なるが同船一隻平均六十圓內外の漁獲あり一尾平均五十錢にして將來最も好望なる新漁塲なる旨元山府尹より報告ありたりと

●**貨幣發行高週報** 十二月四日より十日に至る發行高左の如し

| | |
|---|---|
| 銀行劵總發行平均高 | 一九、二三九、七五七 |
| 內 | |
| 正貨準備發行平均高 | 六、五五一、四六四 |
| 保證準備發行平均高 | 二、六八八、二九三 |
| 硬貨發行高十二月十日現在 | 八、二四六、二六五 |
| 內 | |
| 金貨二十圓 | 一、八五〇、〇〇〇 |
| 同　十圓 | 五〇、〇〇〇 |
| 同　五圓 | 五〇、〇〇〇 |
| 銀貨五十錢 | 一、三六四、〇〇〇 |
| 同　二十錢 | 二、〇三四、〇〇〇 |
| 同　十錢 | 一、八八九、〇〇〇 |
| 白銅貨五錢 | 五八三、七五〇 |
| 靑銅貨一錢 | 三四三、六七五 |
| 同　五厘 | 八一、七四〇 |

●**各部長官會議** 十三日午前十一時長官會議を開き山縣政務總監、石塚、倉富、木內、宇佐美の各部長官、榎副總裁、明石警務總長、大屋池田の兩局長官列席政務の打合せを爲したり

●**稅關長會議終了** 過般來總督府に於ける稅關長會議は引續き開會したるが十三日同會議の全部を終了したりと

●**廣軌改築資金** 廣軌改築に要する費用はこれを一時借入金に依るの計畫と內債に依るの計畫とを立て居れるがこれを外債に依る場合における公債の利率は嘗て巴里において募集したる四步利公債四億五千万法及び倫敦において募集したる四步利公債一千百萬磅の利廻りが手數料其他のものを合算して淸算するときは實際利率は四步四厘强となり居れるを以てこの利廻りを以て基礎標準として又內債に依る場合における公債の利率は今春來募集したる四步利九十五圓手取公債の利廻りがその實際は四步二厘となり居れるを以て必要に應じて內外債を募集せんとする場合においてはこの利率を以て募集し得るものとし一時借入金の利率は內債の利廻りと同樣に打算せり

●**米國の新戰艦** 今次發表の米國大統領敎書中に見へたる來年度起工大戰鬪艦二隻の規模は尙知るを得ざるも前月十三四日頃右二戰艦の入札を開始したる當時紐育電報に依り識り得たる所に據れば主砲は十四吋十門にして裝甲鈑の總重量一萬二千七百六十四噸に達するものゝ如し又十四吋砲は本年度計畫の戰艦にも裝備することとなり居るを以て最早新規の計畫とは謂ふべからず尙米國海軍の此の新式砲に對する準備を覗ふに足る報道としては去る十月初旬に十四吋鐵甲彈購買入札を募り開札の結果該砲彈二千二百個（期限二百六十五日目との條件付にてフオース、スターリング會社之を請負たるあり來年度の戰艦はワイオーミング（二万六千噸）の改良型にして二萬七千噸なりとの說あるが前記裝甲の數量に誤りなしとせば恐らく一層巨大のものと見るを要すべしと聞く

●**釜山建築增加率** 同港の現況は日進月步の狀勢にして人口戶數の增加することは實に目覺しきものの由なるが今民團にて調査せる本年一月より十一月迄の同港建築家屋の增加統計を引せば建築家屋四百七十三戶にして一日平均一戶四分二厘の比例なり尙解家燒失の家屋は六十二戶にして一日平均〇一八强の比例なりと

●**露亞銀行大連位置** 露亞銀行大連支店の新設位置に就ては今尙ほ研究中なるも監部通舊正金銀行支店跡の再使用に堪へ得ば同家屋を充用する筈にて目下技師をして測定せしめつゝあり營業開始期は右家屋は勿論全部の準備完了後にあらざれば決定せざる可しと

●**宇佐美長官歸任** 豫定の如く十二日午後十時二十分歸任せり

●**關屋局長の歸任** 十四日歸任す可し

●**道內務部長一行** 豫記の如く京畿道內務部長中大路事務官の一行は藥師川警務部長と同道昨日午後三時三十分仁川發にて歸城せり

●**藥師川隊長歸任** 檜垣道長官代理中大路內務部長及び藥師川憲兵隊長一行は十四日午後三時三十分仁川發列車にて歸任すべし

●**村田分隊長巡視** 村田第二憲兵分隊長は十三日其管轄なる麻浦方面北延津宮へ出張し憲兵出張所を巡視せり

●**水越理事の歸京** 韓銀理事水越理事氏は行員櫻井書記氏を隨て銀行劵發行其他の用務を帶び東上中のところ昨夜歸京せり

●**民團議員改選期** 去十日統監府令第五十七號廢止と同時に內務部に於ては議員改選を要すべき民團即ち京城、仁川、釜山、平壤、馬山、群山、木浦、元山、大邱等に向け電報にて十二日現在にて選擧名簿を調製し明年一月三十一日改選を行ふべき旨通達せり

●**民團議員選擧準備** 民團議員改選及び選擧名簿調製期日に對する別項各民團への電達によりて明白となりしにつき夫れ〳〵準備に着手中なるが掛員は十三日より午後十一時迄夜業し來三十一日まで名簿調製を結了すべく尙は名簿は一月一日より七日間縱覽を許す筈なり

●**仁川民會流會** 仁川民會例會は十二日開會する筈の處流會となりたるを以て十三日午後七時より開會の筈

●**英國滊船の入港** 英國滊船シエシヤス號は本日大連より入港數日滯仁の由

●**鮮人の日語研究會** 京畿道果川郡地方の近狀を聞くに民心甚だ平穩にして孰れも新政に悅服し居れるが取分け鷺梁津上次山里の鮮民は併合の結果日語の必要を感じ去二日より同里に日語研究會といふを新設したるが會員旣に十二名に達し敎師は同地小學校日語敎師仲村捷敏氏に囑托したるところ同氏は喜んで無俸給にて敎授の任に當る事となり昨今は土曜日を除くの外每日午前七時より同九時まで授業をなし會員は何れも熱心に研究し居よし

●**漢江悉く結氷す** 漢江は數日前より結氷を始めたるが折柄の嚴寒に去十日悉く凍結し渡涉差支なし

### ▲治外法權▼

十二日附で朝鮮總督府中樞院議事規則が發布された、サテ一讀に及んで見ると其內容のハイカラなことは維新後に出來た元老院以上だ▲顧問、贊議、副贊議と名は變はれど、實は何れも立憲的に、言論を以て總督政治に參與するのだ▲常に非立憲的とか武斷とかの評を受け居る寺內總督が未來に於ける朝鮮議會の卵とも云ふべき中樞院を作つたのは何の爲か勿怪之れ總督が案外に立憲的で亦た武斷でない證據だ▲汪清國公使が目下來て居られる、本紙は從來日清兩國の爲に日清同盟を主張して居る、汪公使の如き本紙の主張に同すべしだ▲鎭海灣軍港の事を大騷する者があるが十ケ年間に僅か八百五十万圓と聞いたら驚くこともあるまい、昌原から鐵道が出來たなら兎に角今の縣洞は全く孤遷の住家だ▲縣洞と云へば同地駐在の野大佐は鎭海灣牛島將來の產物として桑樹を植附けんとして居る、軍港の繁昌よりは此方がさきだ▲有吉長官が病氣療養の爲め東上した、醫士曰く有吉さんの肺は迚も南山の吹下しに堪ぬと、然らば後任者は誰か▲某將軍某將軍に訓言して曰く石部金吉稅金兒、進降京城紛黨門、と訓言が振つて居る

### 公人私人

△高橋高（憲兵司令部附陸軍三等軍醫正）十二日釜山より入京山本に投宿

△佐伯美津留（遞信省技師）十二日仁川より入京山本旅館投宿

### ▲京城手形交換高▼

十二月十三日　枚數 一四四、〇〇六、金高 三五一、〇二五

### ▲相塲電報（十三日）（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（二月限）

| 銘柄 | | （前塲） | （後塲） |
|---|---|---|---|
| ▲神戸 | 寄 | 三七、九〇 | 三七、八〇 |
| 電鐵 | 引 | 三七、九〇 | 三七、九〇 |
| ▲京坂 | 同 | 五九、〇〇 | 五九、〇〇 |
| 電鐵 | 同 | 五九、〇〇 | 五九、一〇 |
| ▲鐘淵 | 同 | 一〇四、六〇〇 | 一〇四、二〇〇 |
| 紡績 | 同 | 一〇四、一〇〇 | 一〇四、二〇〇 |
| ▲東本 | 同 | 九七、一〇〇 | 九七、四〇〇 |
| ▲日船 | 同 | 出來不申 | 不明 |
| ▲郵京 | 同 | 一三一、〇〇〇 | 一三一、四〇〇 |
| 株新 | 同 | 一三一、三〇〇 | 一三二、三〇〇 |
| ▲大坂 | 同 | 一四〇、八〇〇 | 一四一、三〇〇 |
| 株式 | 同 | 一四一、〇〇〇 | 一四一、三〇〇 |
| ▲關直 | 同 | 一三九、七〇〇 | 一三九、六〇〇 |
| 取引 | 同 | 一三九、八〇〇 | 一四〇、〇〇〇 |

### ▲大阪期米▼

▲前塲● 十二月寄十四圓六十三錢止五十三錢▲一月寄六十七錢止五十九錢▲二月寄九十九錢止五十九錢

▲後塲● 十二月寄十四圓六十五錢▲止十五圓一錢▲二月寄十四圓五十三錢止九十七錢

### ▲仁川米豆取引▼

▲前塲● 十二、一月出來不申▲二月寄九圓七十八錢▲最高七十八錢▲最低七十錢止七十一錢

▲後塲● 十二、一月寄出來不申▲二月寄六十八錢▲最高七十一錢▲最低六十二錢止七十一錢



# 税關官吏の艶聞(上)

▽捨てられた福助拍子

仁川税關官吏伸義敏(三二)と元松山樓藝妓福助事大崎セン(二三)及本年四月頃迄龍山和歌の家に仲居を勤め居り十月初旬仁川水道事務所某の周旋にて同地八阪樓へ住み込みたる姫島しげ(二九)との艶事を記さんに伸義敏は熊本の生れにて本姓は生駒なれど東京芝白銀町仲某家へ養子となり先年妻と共に仁川に渡し税關に奉職し何不自由なく暮し居る中妻はふとした風邪が元にて遂に歸らぬ人の數に入りしより義敏は非常に落膽して獨り寂しく只役所大事と勤め居りしが月日の經つにつれ元來多情の性質とて空閨の淋しさに堪りかね去る六月廿一日に前記松山樓に登樓し福助を招き玆に一夜の契りを結びしが病付きとなり夫れよりは寢ても覺めても現の上せ方にて先妻の事はいつしか忘れて一日でも顏を見ぬと寢られぬとて足繁く通ふにつれ福助も憎からず思ひ勤め氣離れてのもてなし振りに益々有頂天となり七八の兩月の如きは殆んど毎日の如く福助の許に入り浸りにて役所へも同樓より通ひ居たる程とて互に寒中百度以上の熱となりし結果八月十五日にれ定りの夫婦約束をなし誓紙を取交すと同時に先妻の遺物なる金指環と銀の懷中時計を與へしかば福助も大に喜び若し義敏か來ぬ時は福助の方より呼び出しては近所で嬉戲して娯しみ居りしも遂には人目も忘れ毎夜〳〵寺町なる義敏が自宅へ押掛け行き夫婦氣取りて嬉しく娯しみ夢の如くに暮し居たる迄はよかりしが十月初め頃義敏は友人の交際で八坂へ行くが直ぐに歸つて來る程に待つて居よと言ひ置きて出て行きしがこれぞ福助が捨てらるゝ端緒なりしとは神ならぬ身の知るよしもなきぞ是非なけれ話しかわつて義敏は八坂へ登樓し飲めや歌へと騷ぎ居りしに折柄座に侍べり居たる仲居しげは義敏の目に居りたる工合や自分に幾分思召しのある樣子を見て此奴甘く綾なせば出世の緒にもと逸早くも合點して秋波を送りしかば多情の義敏何條異存のあるべきぞ忽ちナマコの如くなりて鼻毛を延ばし僕の家は寺町のかく〳〵の處故是非遊びに來て呉れとて其夜は其儘歸りしより胸に一物あるしげは翌日役所の退けるを待て早速寺町の宅を尋ね行きしより義敏の喜びは何にたとへんものもなく能く來て呉れたと手を引かん計りにし座敷へ上げいろ〳〵の話の末一言二言の冗談より福助どの約束の事に打ち忘れ又もや此にしげと果敢なき契りを結ぶに至り

## ●浮浪者の舊惡露顯

東京市小石川區小日向武島町八十七番地當時住所不定奥村千里(二九)が十一月二十八日午前九時南大門驛着列車に乘り込み居る擧動不審に付怪しと認め長野岸兩刑事は本署に引致取調したるに奥村は三十八年五月關東州民政署府員拜命三十九年十月解雇、同時に同地所在横濱正金銀行大連支店に雇し居る内同年九月廿七日同銀行より遼陽軍隊に送附す可き金八十圓を窃取同月中同銀行舍宅住居中反物行商人より大嶋紬五反(代百二十圓)を騙取入質して酒色に費消し四十二年八月十五日旅順港乃木町四丁目八番戸小倉洋行店員に雇はれ從事中本年一月より八月迄の間に於て得意先の賣掛代金五百餘圓を横領同地料理店雀亭酌婦新玉外數名の爲めに費消し在職中融の金八十圓窃取其の他旅館に泊り宿料未拂滊船滊車の無賃乘り外數罪發覺し夫々照會を了へ十三日檢事局に送らる

## ●いくの控訴審

澤崎いくが竊盜並びに横領罪に因り第一審裁判所に於て有罪の判決を受け不服控訴し京城控訴院に於て審理中なりし事は既報の如くなるが該事件は昨十三日楠裁判長寺田檢事の係りにて審理終決せしが被告辯護人として木尾、北島の兩辯護士出廷寺田檢事は控訴棄却の論告ありて木尾辯護士は本件犯罪に付ては辯護の餘地なく單に被告が犯罪動機に付て辯護し裁判長の同情を得情狀酌量を受くるにありとの條項を一より四に分ち明確に述べ要點とす可き處は實子即ち清月樓に娼妓たりし緊を落籍せしに付ては辻屋番頭たりし菊池某より出金す可き筈なりしに同人は調金出來ず何處となく行衛を晦したる位にて實子の情に引されて犯罪を構成したるものなれば同情す可き點あり且つ本人は改悛の狀あるを以て刑の執行猶豫あらん事を求むと辯論せり言渡は來る十七日と決定して閉廷したり

## ●酌婦虐待致死

仁川京町二丁目料理店大吉樓事大西マサ(三九)は方酌婦山口縣下關生れ伊藤スエ(二〇)は去月廿日頃より子宮病に罹り一時休業せしが其後經過好からず遂に床に就く樣になりしにマサは近頃の不景氣に[illegible]き客もなき處へ加へてスエの病氣とて何にかにつけつらく當り殘忍にも此の嚴寒に薄蒲團一枚に食事も碌々與へざるよりスエは日々に衰弱骨と皮ばかりになりしを附近の者も見兼て警察へ屆出でたるを以てマサに懇々加說せしかば夫れよりは幾分か虐待をせざりしが日數過ぐるにつれ又もや死ねよがしに虐待せしより四五日以來の寒氣に身体非常に衰弱し遂に一昨日午前六時頃死亡せし由實にマサの慘酷なるを惡くみても尙餘りありと云ふ

## ●銃器密賣者就縛

京城北門外舊基洞居住方致俊(五九)李海昌(三三)金順根(三九)の三名は黃海道の暴徒首魁に銃器を密賣し居る事屢々なるを其の筋に探知し取調べを受けしも證據薄弱の爲め都度放遣されしが昨年九月頃銃器十三挺及火藥類を密賣したる件は證據充分なる事第一憲兵分隊中上憲兵特務探知し分隊に引致係官にて取調中なりと

## ●徵兵忌避者逮捕

滋賀縣大津市藏橋町生れ北村捨松(二一)は十七歲の折り渡鮮仁川港に於てボーイに從事せしが身分不相應の遊興のみ爲し其筋の注意人物となり居りしに本年三月龍山に於て徵兵檢査を受け合格の結果步兵第九聯隊に本月一日を以て入營す可き命令を受け居りしに該期日に入營せざるより其筋にては所在搜査中の處同人は仁川寺町の或る王突場の下女と深き關係を結び居り執れの辛さと旅費とに困り入營を嫌ひ京城に逃げ來り本町下宿屋福島屋早崎初殿方に潜伏し居る事第一憲兵分隊中上藤村の兩特務探知し引致に行きしに女將かめは北村は家出し行先不明の旨答へしより諸所搜査の末壽座表方に從事中なる事判明分隊に引致目下取調中なりと

## ●横領犯人の處刑

兵庫縣明石郡明石町内西町八十番地當時龍山櫻町一丁目二十七番地本田至彥(二三)は龍山漢江通り四丁目六十六番戸雜貨商上田爲吉方に雇れ得意先に雜貨配達旁ら賣掛代金集金に從事中去る本年八月下旬より十月迄の間に於て賣掛代金八十餘圓を横領したるのみならず向九月上旬より十月下旬迄の間に主人上田の名義を利用して恰も主人が仕入れする如く裝ひ四十餘圓に相當する雜貨類を騙取し是等全部を桃山遊廓にて費消せし橫着者なるが昨十三日京城地方裁判所にて懲役八ヶ月に處せられたり

## ●ビクツりする筈

山口縣下ノ關市豐前田町八十七渡邊岩吉(三三)は一定の住所なく所々を徘徊し居る者なるが昨十三日午前一時頃南部養生坊倉洞人力車夫安道明(三十)方へヨボとも言はずに無斷で忍び入り妻南宮姓女(二四)の寢所に這入り込みし故妻はビックリして此の由夫に告げしかば安道明は妻の寢所に一人入り込み居る岩吉をトッ捕へ南部署に訴へしかば家宅侵入罪として目下審理中とは妙な男かな

## ●廣島の朝鮮藝妓

東京で娼妓に不認可となりしも廣島では船入時高槻方へ釜山生れの妓生楊鳳仙(十八)外三名藝妓として認可された妓生曰く『日本を見物し其上れ金を儲けるのです』

## 廓のうはさ

獨立軒女運文之助の經營せる菊屋は非常の繁昌にて藝妓に不足を感じ今般東京より容貌が美くて藝の達者な凄腕藝妓を招聘其の筋に願出の準備中なれば何れ近日中に現れ出づ可く候▲文之助が浪花節に熱心なる事は隱れなき事實なるが最近に歌舞伎座に開演せる小圓一流の節回しも呑み込み目下盛んに言上仕つて粹士連の高評を得つゝある由御座候▲同家の茂松は去る十一日某長官の歸城出迎ひと稱し其の實去る文士が歸省を水原迄見送り申候▲松葉亭より光昇樓に鞍替したる舞子太郞の前途に囑望せる旭町附近の去る粹士が附け覗ひ居るとか油斷はならず候▲井門樓の政子は或る目的の爲め向ふ二ヶ年間は男猫も膝に乘せぬと神明に誓ひ現在身上の腕にならんと勉强致し居り候▲同樓の鶴香は政子の仕込みにて前途有望なるが歸りたい〳〵と申居り候▲清華亭の丸子は藝娼妓雇入れ金錢貸借契約第二條に基き遊客よりの貰ひに重きを置き自巳取得に從事中可さの規則を遵守客に無心は仲〳〵上手との事にて年末に際し夫〳〵馴染客に無心の準備中何等關係なき木尾辯護士と高橋辯護士より撰定され新聞に素破拔れし爲めに大事な馴染の某請負人泥朋街の大商店番頭二三の人に故障申込れ無心に損害を來せしとて新聞記者と高橋辯護士とを怨み居り候▲花月の光菊は某文士歸省後客が減じたりとて後補者を探し居るとかに候(その字)



寒い職業(瓦斯燈點じ)

## 目ご耳 (九日分)

▲壽座 來る十三、十四兩日壽座に於て素人淨瑠璃納會二日目番組は御祝儀(みどり)由良湊千軒長者姉弟秋嘆の段(龍)澤市內の段(新生)寺子屋の段(若松)赤垣出立の段梅(泉)毛谷村六助住家の段(眞駒)鈴ケ森の段(龜子)八陣政淸本城の段(志樂)三勝半七酒屋の段(靑枝)中將姬古跡鶴雪責の段(馬昇)源平布引の瀧松波琵琶の段(一惣掛合)三味線豐澤龍糸、野澤吉鶴、野澤才六なり

▲浪花館 馬關辨天座及び釜山幸座に於て大好評を博したる浪花節京山北星一座にて來る十五日より開演する由なれば定めし大人氣大入りなるべし

## 高等女學校成績品展覽會寸評

京城高等女學校生徒成績品の展覽會を時のゆるすまで覗き見んと濟潔なる新築校舍の門を入れば玄關に四五名の學生居並びて懇ろに迎へ呉れぬ、案內知れるまゝ階段を登れば赤染衛門の尾張記行掲げらる筆者は四年級佐藤か代子婉麗ならずといふも筆跡薄はさてよく出來たり、又も階段を登れば右も左も前も後も名文、詩歌目もまばゆきばかり掛けられたり、見もて行くに何れを甲乙と品さだめ出來ねど中にも一年級平山嶺子の勅語、同級伊坂八重子の函嶺記は一年級としては出來ばへよく四年級平山孝子、若林綾子、三年級遠藤政子のものしたる筆跡勇健男子をして後へに瞠若たらしむるものあり。歩を轉じて第二室に入る英語は隨意科なりといへば概して見劣りせり、地圖は各級を通じて其の精巧に驚かしめ生徒の書き綴りたる日誌は心行くばかり讀みもて行かば面白からんと思ひしかど府內學校生徒の參觀者ひしとばかりつめよするまゝに惜しき足を運びて第三室に入る、圖畫圖按見るべきもの多く中にも一年級松の組伊坂八重子の林檎はれいしそうで、四年級宮岡あさ子の鬼、朝顏は畫家のものしたるかとまで思はれ、二年級宗稻葉子の急灘の竹に雀、武藤あや子の藤上出來にして古賀たよ子の水鏡は婉艶なれどバックサイトを今少しなどいはれもせぬ第四、五、第六室は裁縫ものばかり二千餘點何んと云ふ勸工場へ行きしやうの感ありき不粹の記者には批評のしやうもなけれど只上手なものだとは思はれたり殊に廢物利用とてリボンの古きを小供の胸掛などに作られしは良妻賢母の行末ゆかしと思ひたり、時にせかるゝまゝ惜しき賞觀を發して歸らんとするに三年級の生徒十數名廊下に要して記念繪葉書買へと强ふるに持合せなければと逃ぐるが如く轉び階段を下る聞けば校友會の事業として出品の販賣をなすとかや、まだうら若き乙女子の今より活社會の有樣を研究せんとするのかとも思はれたり、成績品は之と內地のものと較ぶるに決して見劣りせず實に岩根こゝしき南山のふもとの岡に眞木柱ふとしき立てゝ今こゝに生れ出でぬる君等が校舍の美と共に行末長く榮われかし(五洲)

## 今日の運勢

●十二月十四日舊十一月十二日五黃佛滅癸丑除△一白產上の事見合せたるべし△二黑改築修繕旅行移轉轉業に吉連帶共同結社の事に忌む△三碧厄運日諸事手控への事盜難遺失橫領防ぐべし△四綠新事婚談結社訂約連盟に忌む提言要求に傾く勿れ△五黃諸事謹愼の事起業開店旅行に尤も忌む遺失防ぐべし△六白快欣の日大凡吉旅行婚談相談謀議締約に良好△七赤婚姻雇入れ子孫の事見合せたるべし其他進んで吉△八白失錯脫漏の日業務上細心の注意を要す他は平和△九紫連帶結社合同の事に忌む其他進んで吉(本町五丁目三一館判斷)

●諸公債諸株券 現物賣買

迅速確實に御取扱可申候兼業 官衙御用達 間場手形小賣

京城本町三丁目 大坂野村德七代理店 田中友吉商店 電話



恩給年金 者へ便利長期立替 諸公債券現物賣買 保險
確實取引 月一歩五厘
京城中部藝坊相思洞 廿九統七戸下宿業博多屋方
上州屋支店 電話九百六番




日本の二大賣藥
朝鮮代理店 京城新井藥房

◎貸金 旭町二ノ一五別府組車帳場筋向小路 高橋
有給者にて極秘密に低利融通可申候

質 本町一丁目裏通り支那領事館筋 南商店 電話一〇九六番




登録商標 最上醬油 山十印
千葉縣銚子町 釀造元 岩崎重次郎
京城本町壹丁目 發賣元 三巳商會 電話七五三番

本品は貧血症、肺病及之に類似の疾病、消耗性疾病、衰弱、病後の回復期等の神經症、食卓の前に飲むならば其効に對しては特に顯著なる特効有す
大瓶二圓 四十錢 小瓶八一錢（送料委細は說明書の通）無代贈呈す

ボビナイン
飲むだけ血になる
ボビナイン

横濱市境町 合資會社友田商店 振替口座東京一九三八番
朝鮮代理店 京城本町郵便局前 山岸天佑堂 振替口座朝鮮二〇三番 電話三七二番

資本金五百萬圓
本店 東京日本橋區吳服町
支店派出所（横濱 天津 釜山 京城）
東京建物株式會社京城派出所
京城旭町二丁目百十五番戸
電話番號一六八一番
營業科目
土地建物抵當貸附
月賦償却建物建築
土地建物賣買紹介

新築開業御披露
京城本町一丁目裏通支那領事館前
京城湯
毎日午前六時ヨリ朝湯開始
水道水を使用

齒科診療
齒科醫 楢崎東陽
京城南山町二丁目（天眞樓隣 寫眞館跡）
電話千三百六十番

御待合 紅葉
南大門通三丁目光宣門側
電話一三八二番

十二月一日より十二月卅一日まで 聯合大賣出し
金一圓毎に景品券一枚宛進呈す
均一價格
獨逸ボックス一枚皮靴 七圓
東洋ボックス深ゴム網上靴 五圓
深ゴム網上靴 四圓
クローム製ボックス一枚皮ゴム網上 三圓六十錢
右聯合大賣出し中は特別精品を均一價格にて大賣出し致し其の上金一圓毎に景品券一枚宛進呈仕候間續々御來店御用命仰付被下度伏而奉願上候
京城本町一丁目 電話九一九番
富田靴店

胃腸新藥 タカヂアスターゼ
滋養劑 グリコナール錠
緩和下劑 カスカラ糖衣錠
其他各種藥品
發賣元 東京市 三共合資會社
朝鮮總代理店 仁川 竹田津三平

京城相生町（南門湯横）電話一二九四
京城梅毒病院
◎花柳病兼痔疾專門
院長 醫學得業士 蘆田耕平

義齒術一般
京城明治町一丁目（森、村質店隣）
榊忠司
取次電話六六九番

新荷續々着
一レモン 一アップル 一チレンヂ
一干葡萄 新着
洋酒食料品ハ固ヨリ彩色箱、化粧品等新着荷致候 手遊品類近着
大陳列場御一覽被下度候
明治四十三年十二月
京城大漢門側
エル、ロンドン商會（電話九九五番）
○西大門外アストル、ハウス前に庭園廣き洋韓折衷の高等貸家あり水道附屬家賃三十五圓

純粹東京新品荷揃
絨仕立物一式 トンビ東コートインバチース厚司絨前掛
毛布各種 軍隊用カーキ色毛布並にチヤケーツ種々メリヤス類靴下手袋帽子防寒用品各種
右確實品續々澤山入荷仕り間多少に拘らず御用命御願上候也
地方各位樣御注文の節は迅速に御發送可仕候也
京城明治町一丁目百二十二番戸
毛織物 絨仕立物一式 メリヤス類 防寒用品 外雜貨種 御商
東京暮田支店
電話一六四二番 電略クシ 振替口座三七七番

人力車引越其他諸荷物運搬請負
西小門內
西門組
電話一一七七

見落給ふな
特別大景品附大賣出し
今般聯合大商出の擧に座し當商會も加入罷在候間得ば倍舊の御厚情に預り度猶多年御愛顧にむくゆる爲め特別左の規定を設け大々的大賣出仕候間機を見るに敏なる賢明諸彥陸續御來求あらん事を伏希仕候
金口 葉卷 莨 各種
デーヱス パチレス商會
特別規定
當商會より差出せし聯合景品券（當商會スタンプ押捺あるもの）にて左記當籤者には下記の特別景品を呈す
一等、當籤者へは金口莨壹千本 二等、當籤者へは同樣 六百本
三等、當籤者へは同樣 五百本 四等、當籤者へは同樣 五百本
五等、當籤者へは同樣 三百本 六等、當籤者へは同樣 二百本
七等以下三十等までの當籤者へは各百本宛 三十一等以
下四十等までの當籤者へは各五十本宛
期日十二月十日より同月三十一日まで
（注意）贈與期限りあれば至急好機を逸せられざるは諸君の賢なる處なり
右歲末年始贈品に適當に付多少共御用命願上候

横井陸軍軍醫監御處方
戸塚山本兩軍醫總監證明




五福眼藥は日露戰役の際陸軍病院にて使用されたる處方により調劑せるものなり
トラホーム、はやり目、ちり目、かすみ目、たゞれ目、のぼせ目、とり目其他眼病一切に特効あり
五福眼藥
定價壹瓶十錢
全國各藥店にあり
大阪北區曾根崎新地田町 安住大藥房

朝鮮名産
鶴乃箸
○鶴の骨細工種々
○鶴の羽細工種々
○朝鮮土産品種々
製造發賣元 京城本町三丁目 電話二五〇 振替朝鮮四八 海市商會
特約發賣元 京城本町四丁目（電話九五六）日之出商行
特約發賣元 京城本町六丁目（電話二一〇）西崎本店

新案 丸たびもた
和洋古物各種
堅牢で廉價な半西織
京城本町一丁目 丸 桒原商店 電話四八三番
丸出張店 京城本町五丁目郵便局入口

官衙御用
營業科目
和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋帳簿 防腐アレシン 鑛物食鹽 諸物料類
發賣販賣
東京ランバーゲ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目東京堂 電話（三〇番）
出張所 京城南大門通り 電話三六九二番
弊店儀各位の御引立に預り日に月に盛運に赴き候段偏に華客の御贔屓と御禮申上候就ては愈々年末に際し各贈答用に適當の本場精撰鰹節各銘茶澤山着荷仕候に付此際各位の御愛顧に酬ゆる爲め破格の大勉强仕且つ御便利の商品切手も調進可申候間多少に不拘御注文の程奉願上候

御進物用
鰹節


銘茶
鰹節銘茶卸小賣商
仁川宮町二丁目
青嶋商店
電話七〇九番
振替口座京城六〇番

釀造元 清酒 政宗 正則
上酒 小賣壹升に付三十錢
清酒 味淋 燒酎 釀造元
京城壽町三丁目
卸賣は特別割引可仕候
並に日用食料品雜貨類
中井酒造場販賣部
電話百七十七番
電話にて御注文の際は一升以上は店員をして遞達致さすべく候

弓打綿 製造販賣元
新花綿荷着に付八十目付製造賣出、並に古綿も弓にて打直し致します
京城本町七丁目（郵便ポスト前）
深堀製綿所
取次電話千五百二十番

弦齋流割烹
すし津祢
南山町二丁目
電話千五百二番

裁縫割烹教授所
規則書御入用之方は郵券二錢封入之事
京城大平町（神田組前）
野村さわ
（電話一四二〇番）

純良消毒牛乳
京城東四軒町
岡野牧塲
電話千六十九番

入院隨意
京城壽町三丁目（電話三七八番）
中島醫院
院主 醫學得業士 中島貞信

瀛船出港廣告
月串、瓮津、海州行 天草丸
安來丸
歡丸
成丸
隔日出港
仁川港海岸通（電話四一九）
柴田回漕店

芙江公州 間出帆廣告
芙江發 毎日後一時 京城方面ヨリ急行接續
公州發 毎日前七時 京城方面行急行接續
（荷客共御取扱可申候）
御用向ノ御方ハ（京城仁川鳥致院芙江公州）中條店へ御尋被下度候